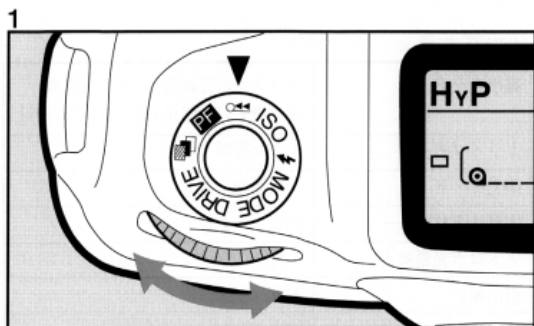
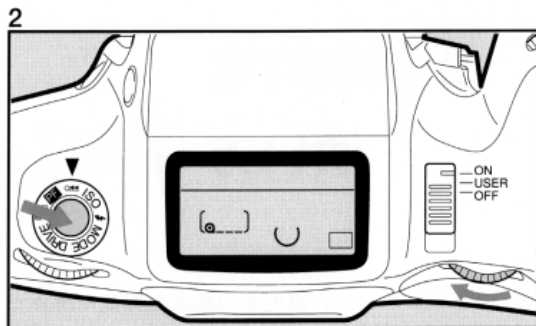




フィルムの途中巻き戻し
フィルムの規定枚数まで撮り終わらないうちに途中で取り出したいときに使います。

* 電源スイッチが **OFF** になっていると、途中巻き戻しの操作はできません。



1. モードダイヤルを **A** に合わせます。
2. モードセットボタンを押したまま A v ダイレクトダイヤルを左方向に2クリック回すと、巻き戻しを開始します。

* 表示パネルの **0** の点滅を確認してからフィルムを取り出してください。

カメラの準備と基本操作

Ⅱ 基本的な使い方 (撮影)

基本的な使い方

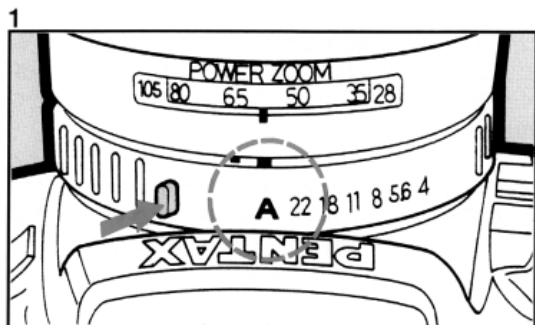
Z-1Pカメラには、高度な自動露出機能や様々なドライブモードが付いていますが、ここでは、最も簡単に使える **USER** (ユーザーポジション) を使用します。写したいものの明るさに応じてカメラが自動的にシャッター速度と絞りを決定しますのでシャッターボタンを押すだけで簡単に撮影が楽しめます。

* ユーザーポジションで使える機能は、右表の通りです。これ以外の機能は使えません。ただし、ユーザーポジションへのユーザーセット機能により任意の機能を設定できます。(75ページ参照)

(1) 最も簡単な露出モードを使います

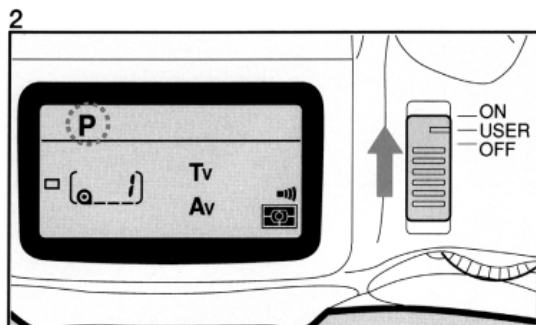
ユーザーポジション機能一覧

露出モード	プログラム自動露出(絞りA位置) 絞り優先自動露出(絞りA位置以外)
ドライブモード	1コマ撮影
測光モード	分割測光
内蔵ストロボモード	先幕シンクロ
ストロボ光量補正	不可
露出補正	不可
オートブラケットティング	不可
プログラムライン	ノーマル



1. 図のように、レンズの絞りリングをA位置に合わせます。

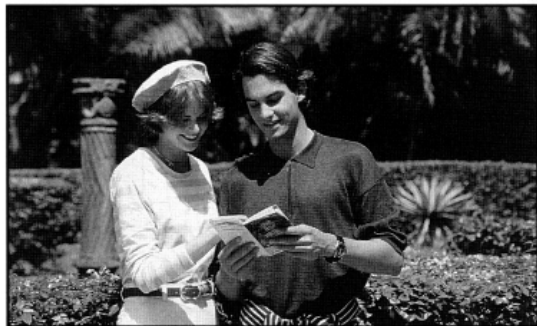
* レンズの絞りをA位置に合わせる場合は、絞りオートロックボタンを押しながら回してください。なお、A位置から外す場合にも、絞りオートロックボタンを押しながらリングを回してください。



2. 電源スイッチをユーザーポジション[USER]に合わせます。

* 表示パネルに[P]が出て、プログラム自動露出に設定されます。

(2) ズームレンズの使い方



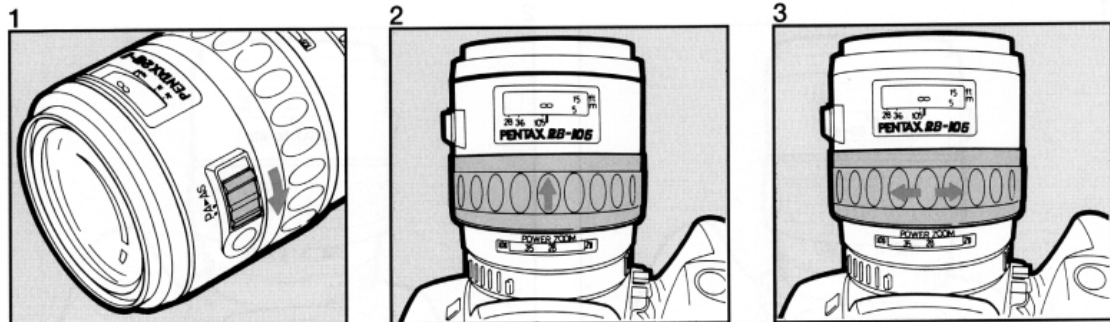
望遠側



広角側

ファインダーを覗きながらズーミング操作をする
と、ファインダー像が大きくなったり(テレ)、小さ
くなったり(ワイド)します。好みの位置に合わせて
撮影してください。

- * レンズの焦点距離表示の数字が小さいときは写
る範囲が広い広角(ワイド)側、大きいときは遠
いものを大きく写す望遠(テレ)側になります。
- * Z-1PにペンタックスF Aズームレンズを組み
合わせると、パワーズーム(電動ズーム)として
使用できます。
- * ペンタックスFズームレンズなどを組み合わ
せる場合は、マニュアルズームとしてご使用く
ださい。



パワーズームで使用するには

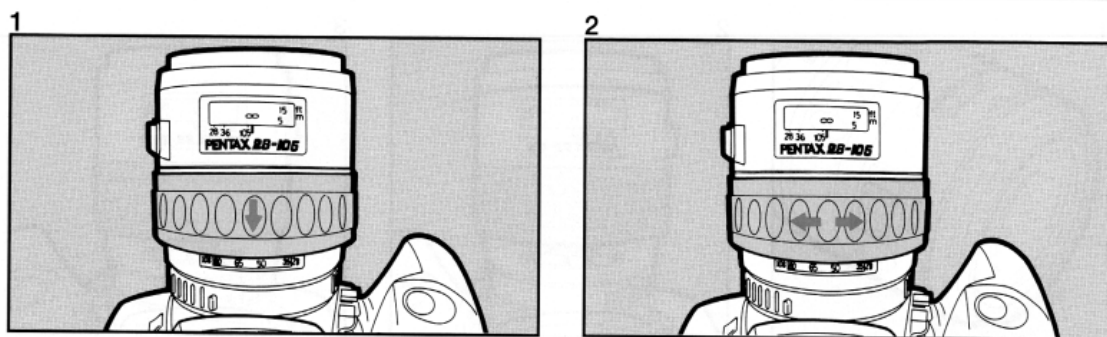
* ペンタックスF Aズームレンズのみパワーズームとして使用できます。

1. F Aズームレンズにはオートズームスイッチが付いています。このスイッチを[P] (一部のレンズでは[PZ]) に合わせます。
2. 図のように「POWER ZOOM」が見える状態にします。
3. ズームリングを右に回すと望遠(テレ)側へ、左に回すと広角(ワイド)側に動き、手を離すと止まります。

* ズームリングは、回転させる角度によって、

ズーミング速度が3段階に変化します。ズームリングの回転角度を大きくする(当て付ける)と高速でズームが動き、小さくすると低速で動きます。その中間位置では、中速でズーミングできます。

- * パワーズームでズーミングをすると自動的にピント合わせが行われます。(ペンタックスファンクションNO. 13で変更可)
ただし、最終的なピント合わせはシャッターボタンの半押しで行ってください。
- * F Aズームレンズ使用時に電源スイッチを切ると、自動的にレンズの長さが最短になります。



マニュアルズームで使用するには

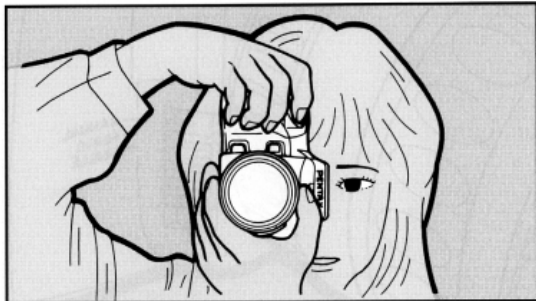
* F Aズームレンズは、ズームリングの切り替えで、マニュアルズームとしても使用できます。マニュアルズームに切り替えた場合は、Fズームレンズと同様に使用できます。

1. 図のように「POWER ZOOM」が隠れるようにします。
2. ズームリングを右に回すと望遠(テレ)側へ、左に回すと広角(ワイド)側に焦点距離が変化します。

横位置



縦位置

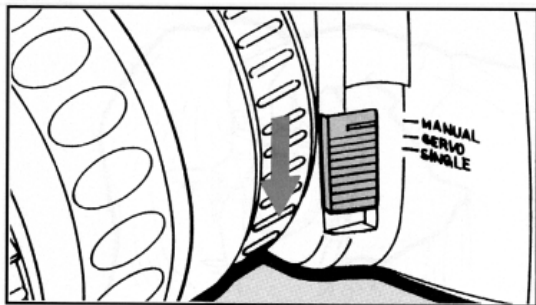


撮影するときは、カメラの構え方が大切です。

- * シャッターボタンは指の腹で静かに押します。
(強く押すとカメラぶれの原因になり、シャープな写真が撮れません。)
- * 木や建物・テーブルなどを利用して、体やカメラを安定させることも良い方法です。
- * 1/30以下の低速シャッターや超望遠レンズを使用するときは、なるべく三脚を使用してください。また、別売りの「ケーブルスイッチ」の利用をお勧めします。

- * 特に望遠レンズで三脚を使用するときは、カメラやレンズの総重量より重い三脚を使うとカメラぶれ防止に効果があります。

(4) オートフォーカスで使います

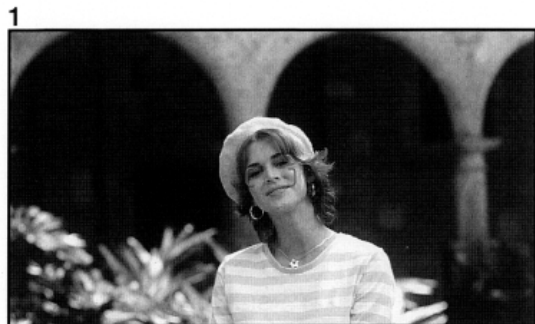


図のように、フォーカスモードレバーには3つのポジションがあります。オートフォーカスで使うには、フォーカスモードレバーを **[SINGLE]** または **[SERVO]** に合わせます。

ここでは、フォーカスモードレバーを **[SINGLE]** に合わせておいてください。

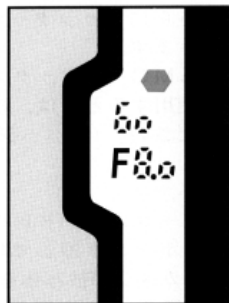
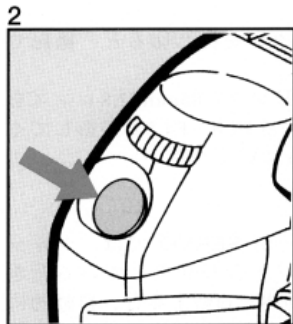
フォーカスモードレバーについて

- ・ **[SINGLE]** = シングル
シャッターボタンを押すとレンズが自動的に動いて、ピントが合うとシャッターが切れるようになる、最も一般的なオートフォーカスモードです。ピントが合っていないとシャッターは切れません。
- ・ **[SERVO]** = サーボ
シャッターボタンを半押ししている間、被写体の距離が変わっても、それに合わせてピントを追いつけるオートフォーカスモードです。ピントが合っていないでもシャッターボタンを押し込めば、いつでもシャッターが切れます。このモードでは動体予測機能も働きます。
- ・ **[MANUAL]** = マニュアル
手動でピントを合わせるときに使用します。オートフォーカスの苦手な被写体などのときに使用します。(38ページ参照)



1. 写真のように、AFフレーム **[C]** を写したいものに合わせます。
2. シャッターボタンを半押しすると自動的にピント合わせが行なわれます。

- * 構図上、AFフレーム **[C]** がピントを合わせたいものから外れる場合は、「フォーカスロック撮影(31ページ)」をご利用ください。
- * ピントが合うと、図のようにファインダー内の **[O]** が緑色に光って、「ピピッ」と電子音が鳴ります。(ペンタックスファンクションNO.1で変更可)



- * オートフォーカス作動中は、レンズの距離リングに手をかけたり回転を妨げたりしないでください。

[O] が点滅を続けるときは、以下の理由でピント合わせができないときです。

- ① 撮影距離が近すぎる
- ② オートフォーカスの苦手な被写体の場合(38ページ参照)

- * さらにシャッターボタンを押し切ると、撮影できます。
- * SMCペンタックスFソフト85mmF2.8レンズを使用するときは、絞りをF2.8～F4.5で撮影してください。(39ページもご覧ください)

- * フォーカスモードレバーが **[SINGLE]** で、ドライブモードが連続撮影 **[]** のときは、ピント合わせは1コマ目のみ行なわれます。2コマ目からは、1コマ目で合わせたピントのままシャッターが連続的に切れます。再びピント合わせを行なうには、シャッターボタンから一旦指を離してください。

AFサーボ撮影:

フォーカスモードレバー **[SERVO]** の場合

- * ピント合わせに関係なくシャッターを切ることができ、シャッターボタンを半押ししている間、AFフレームを合わせたものにピントを合わせ続けます。
- * AFサーボ撮影では、動く被写体に対して動体予測を行ないますので、動く被写体に対してピントの合ったシャープな写真を期待できます。
- * フォーカスロック撮影はできません。

AFシングル撮影:

フォーカスモードレバー **[SINGLE]** の場合

- * ピントが合うまでシャッターは、切れません。
- * シャッターボタンを半押しして、**[O]** が光っている間は、ピントが固定(フォーカスロック)されています。「フォーカスロック撮影」をご覧ください。(31ページ参照)
- * 一度ファインダー内の **[O]** が点灯すると、ピントが固定されますから、別のものにピントを合わせ直すときは、シャッターボタンから指を離して押し直してください。



フォーカスロック撮影について

ピント合わせは画面中央のAFフレーム[C]で行なわれます。

構図によって、ピントを合わせたいものが画面中央に来ないときは、フォーカスロック(ピント一時固定)撮影をするとピントの合ったきれいな写真が撮れます。

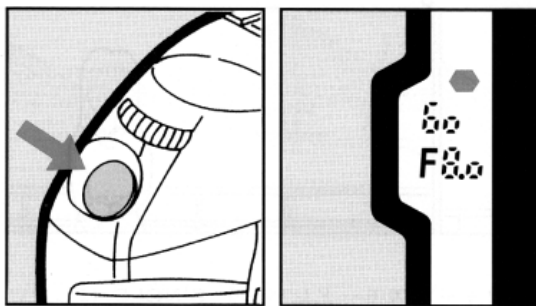
1. AFフレーム[C]が外れたままで撮影すると、図のように後ろにピントが合ってしまいます。
2. ピントを合わせたいものにAFフレーム[C]を合わせて、シャッターボタンを半押し状態にして[]を点灯させたままにしておきます。(ピントを記憶させる操作です。)
3. シャッターボタンを半押しのまま、元の構図に戻して、さらにシャッターボタンを押し切って撮影します。

- * フォーカスモードレバーを[SINGLE]にしないと、フォーカスロックはできません。
- * シャッターボタンから指を離して、ファインダー内の[]が消えると、フォーカスロックは解除されます。
- * 撮影距離を変えるときは、一度シャッターボタンから指を離して、フォーカスロックをやり直してください。
- * フォーカスロック後、シャッターボタンを押し込んで撮影を行ない、シャッターボタンから指を離さずに再びシャッターボタンを半押しに戻すと、フォーカスロック状態のまま何度でもシャッターを切ることができます。

基本的な使い方

32

(6) 撮影します



シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルにシャッター速度と絞り値が表示されます。さらにシャッターボタンを静かに押し切って撮影します。

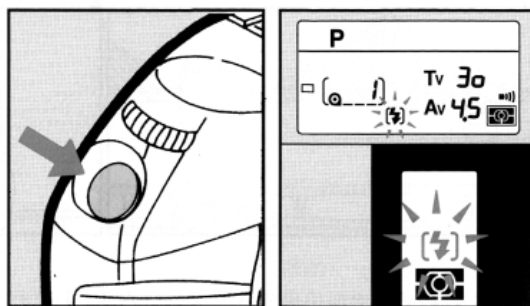
シャッターを切ると、自動的にフィルムを巻き上げ、表示パネルの枚数表示が1コマずつ進みます。

- * ストロボお勧め表示が出た場合には、内蔵ストロボを使って撮影しましょう。

パノラマシグナル [] について

標準撮影のときは、パノラマシグナル [] が消えていることを確認してください。

(7) 内蔵ストロボの基本的な使い方

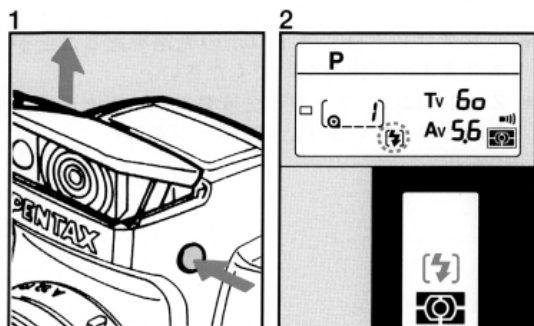


ストロボお勧め表示について

カメラの露出モードをハイパープログラム・プログラム(電源スイッチがユーザーポジション[USER]の場合のみ)・絞り優先自動露出で使用した場合、写したいものが暗い場合や逆光のときに、ファインダー内と表示パネルに[]の点滅(ストロボお勧め表示)が出て、ストロボの使用を勧めます。

なお、シャッター優先自動露出・ハイパーマニュアルでは逆光の場合にのみ、ストロボお勧め表示が出ます。

基本的な使い方



1. 図のように、ストロボスイッチを押して、ストロボを上へ飛び出させます。
 2. 充電が自動的に始まり、充電が終わると、表示パネルとファインダー内に [B], ストロボ同調速度および絞りが表示されます。
 3. さらにシャッターボタンを押してストロボ撮影をします。撮影後、内蔵ストロボは矢印部分を押して収納してください。
- * ストロボを連続して使うと、電池が多少温くなる場合がありますが、異常ではありません。



(ISO 100とき)

使用レンズの開放絞り値	撮影距離範囲
F1.4~2.8	約1~約5m
F3.5	約0.8~約4m
F4.7	約0.7~約3m
F5.6	約0.7~約2.5m

プログラムTTLオートストロボで撮影できる範囲の目安

ストロボ撮影できる距離は、上表のように、ご使用になるレンズの開放絞り値により変化しますのでご注意ください。開放絞り値は、レンズに「1:1.4」のように表示されています。(F1.4の場合)

* 露出モードがハイパープログラム自動露出およびプログラム自動露出(電源スイッチがユーザーポジション[USER]の場合のみ)の場合、内蔵ストロボはプログラムTTLオートストロボとして働きます。

- * プログラムTTLオートストロボで撮影できる最短距離は、レンズの開放絞り値がF4.5より暗いレンズを使用しても約0.7mと一定になります。
- * 0.7mより近距離で撮影すると、ストロボ光のムラやケラレおよび露出がオーバーとなる場合がありますのでご注意ください。

レンズが不適切な場合の警告表示

ストロボ撮影に不適切なF・FAレンズを使用すると、充電完了時シャッターボタン半押しで、表示パネルの [B] やファインダー内の [B] が点滅して警告します。内蔵ストロボの適・不適レンズについては、FAレンズの使用説明書をご覧ください。

- * 警告が出た状態で撮影すると、画面の四隅が暗くなるケラレが出たり、画面下部に半円形のケラレが出ますのでご注意ください。
- * F・FAレンズ以外では警告表示は出ません。

- * レンズフードは、ストロボの光路を遮ることがありますので使わないでください。
- * Z-1Pには、ストロボ2度発光による赤目軽減機能が付いています。(92ページ参照)